

令和8年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【上小小学校】

学力向上
アクションマップ

①	今年度の目標と学力向上策	
重点的に育成する 資質・能力	・国語「知識・技能」の情報の扱いに関する事項について、情報と情報の関連付けや語句と語句の関係の表し方を理解し、活用する力を高め、情報活用能力の向上を目指す。また「A話すこと・聞くこと」の項目においては、正答率が低い問題があったので、「話す力」「聞く力」を確実に身に付けさせる。 ・算数「知識・理解」においては、正確に計算問題を解く力を定着させる。また「思考・判断・表現」においては、考えたことを言葉や文章で表現する能力を高める。	
↓		
実施する学力向上策 【時期・頻度】	・国語「思考・判断・表現」の能力向上のために、授業において物語や説明文に触れる機会を増やし、内容を読み取り記述して表現する力を高められるようにしていく。また授業中に要点をメモする機会をつくる。言葉で表現する場面をつくるなどして、「話す力」「聞く力」を確実に身に付けさせる。 ・年間30回の振り返り「基礎学習の時間」を活用し、通年で国語の書きと計算の問題に取り組み、基礎的な書く力・計算する力を高める。また全校で週に数回の自主学習に取り組み、自分で課題を決めて学習を進め、表現する力を高める。 ・日々、タブレットやICT機器を有効活用し、自分の意見を記録として残していくだけでなく、共同編集アプリなどを活用し、意見の共有なども積極的に行っていく。	

⑤	年度末評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握)
↓		
今年度の成果と 次年度の課題	結果提供(2月)	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果の分析	
特徴的な結果	国語「知識及び技能」の(1)言葉の特徴や使い方に関する事項で、平均正答率が高かった。また、「思考力、判断力、表現力等」のC読むことでも、平均正答率が高い結果となった。 問題形式としては、短答式の解答で高い正答率となっている。 算数「A数と計算」「B図形」では、全国の平均正答率を大きく上回ることができていた。また「知識及び技能」の中で、「立方体の体積の計算による求め方について理解しているかどうかをみる」問題では、高い正答率であったが、「二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる」問題では、課題の残る結果となった。	
↓		
結果から考えられる 児童生徒の実態	国語では、言葉の特徴や使い方を確実に理解できている。文章における読解力についても、確実に身につけていると考えられる。問題形式の短答式においては、高い正答率であったが、記述式の正答率を今後向上させて行く必要がある。 算数「知識及び技能」では、高い正答率であったことから、算数における基礎的な問題を解く力は身に付いていると考えられる。また、「二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる」問題に課題が見られたので、表の内容を正確に読み取り、表現できる力を伸ばしていく必要がある。	

④	さいたま市学習状況調査結果の分析	
特徴的な結果	さいたま市学習状況調査(5月) <小1～中3> (11～12月)	
↓		
結果から考えられる 児童生徒の実態	①学校全体での取組 ②単元テスト・定期テスト等の分析・活用 ③中間評価を経た取組 ④調査結果を活用した授業	

③	中間評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	・国語では、授業中に要点をメモする機会をつくる。言葉で表現する場面をつくるなどを継続し、「話す力」「聞く力」を確実に身に付けさせることを目指している。 ・業前の「基礎学習の時間」を活用し、国語の漢字・算数の計算に取り組むことで、基礎的な問題を解く力が高まっている。 ・タブレットの活用状況が向上し、共同編集等で他者の意見を取り入れるだけでなく、自分の思考を明確化することができている。また効果的に、ドリル等に取り組むことができている。
	B	
↓		
学力向上策の 見直し	変更なし。	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

教育研究所